

## 【特別支援学校のセンター的機能】 ～しろがね分校による地域支援～

しろがね分校では専門アドバイザーが中心となり、前橋市・玉村町・渋川市・吉岡町・榛東村の小学校・中学校・幼稚園・保育園を訪問したり、保護者に来校していただいたりして、発達気になる子供達についての継続的な支援を行っています。

### 10月30日現在の相談依頼の件数(外部支援)

対象	幼稚園 保育園	小学校	中学校	特別支援 学校	その他	計
件数	125件	118件	52件	3件	15件	313件

(その他は保護者や関係機関からの来校相談や電話での相談)

10月3日 中学校のPTA会議において、保護者への講演会を実施。

専門アドバイザーの仕事を紹介します。

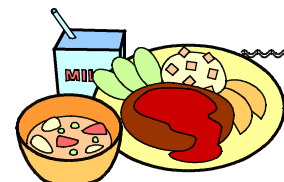
保育園の年長児のお子さんについての相談です。

その保育園では昼食時、給食を食堂に集まって食べます。  
午前中の活動が終わって、給食室に移動するときに、他児がいなくなっても一人で教室に残っていて、なかなか移動ができないという相談でした。

普段はどのように対応しているかという、  
本児に声をかけ、なかなか動かないので、教師は食堂に行ってしまう、  
しばらくして教師が教室に戻ってきて、何回も声をかけると食堂に向かうと  
いう毎日でした。

このような相談の時には、原因を探ります。

- ・ 食べることに興味があるか。(偏食がひどい、あるいはその日のメニューが嫌いということはないか)
- ・ 他の教室への移動の様子はどうか。
- ・ 給食前の活動からの切り替えはどうか。
- ・ 活動の見通しが立っているか。
- ・ 他児との関係でトラブルはないか。



- 行動の取りかかりがスムーズに行くときはどんなときか。
- 逃避・注目・要求・感覚など、行動を維持する機能はないか。 など

以上のことに着目して考えたところ、本児は友達との関係はよく、他の移動場面では友達と話しながら素早く移動できていました。また、食べ始めるとおかわりをするほど食欲が旺盛であり、食事が嫌いということはありません。さらに、午前中の活動が終わった後、コップやナプキンの用意はできています。しかし、エプロンの着用の場面でうまくいかず、そこで他児に遅れを取ってしまい、気分を損ねることが見て取れました。そして、何回かの教師の促しがあると、食堂に行けるという習慣がついていることが分かりました。

そこで、本児がつまづかないようにするためには、まず、食事の前のエプロンの着用のところで、「ひもをバツにしてから頭を入れるんだよね」のような言葉かけをして、スムーズに着用できるようにしました。着用したらおおげさに褒め、すぐに手をつないで食堂に行きます。その際には、歌を歌ったり、話をしたりして楽しい雰囲気を作るようにしたところ、3日後にはスムーズに動けるようになりました。そして、1週間後には教師の代わりに、友達と一緒に食堂に行かせるようにしたら、それも可能になり、食堂で待っていた教師は大げさに褒めてあげました。

いかがですか。

本児はエプロンの着用の場面でうまくいかずに気分を書したことで、その後、教師が何回も迎えにきて注目されることが、本児の行動を決めていました。

全部自分でやらせることだけが教育ではありませんね。ちょっと頑張ればできる課題を与えて、できるようにさせて自信を持たせることが大切ですね。毎日、何分も待っているより、エプロンを着たらすぐに移動するという適切な行動を教師が手をつないで体験させ、移動中に褒めて注目を与える方が成長が早いのです。

参考になれば幸いです。

気になるお子さんがいましたら、ぜひ、お声がけください。  
先生方のお役に立てれば嬉しいです。

群馬県立渡良瀬養護学校しろがね分校

専門アドバイザー 尾岸純子

電話 027-268-6111

